全国商業高等学校長協会創立70周年記念
平成30年度　第65回　全国高等学校ワープロ競技大会

(30. 8. 4)

【競技問題】

東京で２年後に、オリンピック・パラリンピック競技大会が開催 30
される。現在、環境への配慮を考えた大会の開催を目指し、準備が 60
進んでいる。数あるスポーツの大会の中でも最大規模であるため、 90
前の東京大会では巨額の資金を投入して、多くの競技施設の建設や 120
交通インフラの整備が行われた。当時は経済の発展が重視されたた 150
め、環境への配慮は後回しにされていた。 170

２０１２年のロンドン大会は、環境への負荷を可能な限り抑えた 200
大会として高い評価を得た。そこで、今回の東京大会の組織委員会 230
は、環境への配慮を第一に考えた大会の開催を目指している。その 260
中でも注目されているのが、リサイクルした金属でメダルを作ると 290
いうプロジェクトだ。 301

日本国内で大量に廃棄される家電製品やＩＴ製品などは、希少で 331
有用な金属を含むことから、都市鉱山と呼ばれている。この中から 361
金属を抽出して、約５０００個の金・銀・銅メダルを製作しようと 391
いう計画だ。組織委員会は、使用済みの携帯電話やパソコンなどの 421
回収を呼びかけ、金の精錬におけるリサイクル率１００％を目標と 451
している。 457

ほかにも、公共輸送ネットワークを有効に活用できる会場の策定 487
や、既存施設の活用を考えている。また、大会関係車両に低公害で 517
低燃費な車を使うことなども、計画に盛り込まれている。これらは 547
資源やエネルギーを節約することで、環境に与える負荷を少なくす 577
る効果がある。 585

このような取り組みの背景には、地球が抱えている環境問題があ 615
る。現在、環境を破壊せずに人類の消費をまかなうには、どうすべ 645
きかが緊急の課題となっている。世界人口は、４０年後に１００億 675
を超えることが予想される。地球上に住む全ての人が、先進国並み 705
の生活をすると、資源は枯渇し生態系は破壊されてしまうといわれ 735
ている。 740

私たちは、世界の人々が公平に地球の資源を利用し、発展を続け 770
ることができる社会を構築していかねばならない。同時に、人類だ 800

けでなく、地球上に存在する多様な生物の存続も守らなければならない。その実現は、国際連合でも話し合われている世界共通の目標であるとともに、人類全体の責務でもある。

１４年前にアメリカで開かれた主要国首脳会議で、循環型の社会を築いていくことが合意された。その際に、日本の首相が世界に向けて、３Ｒを国際的に普及させることを提唱した。この３Ｒとは、リデュース、リユース、リサイクルを意味する。ごみを可能な限り少なくし、埋め立てや焼却の際に生じる環境への悪影響を減らすことで、資源を有効活用できる社会に転換しようと呼びかけた。

リデュースとは、減らすという意味で、無駄を省いてごみを出さないようにすることをいう。例えば、マイバッグを携帯してレジ袋を使わなければ、ごみを削減し資源を節約できる。また、袋の製造や処分の過程で発生する温室効果ガスを、抑制することになる。

リユースとは、一度使用したものを捨てずに繰り返し使うという意味がある。昔から、育児用品や子どもの衣類などは、家族や知人の間で使い回されていた。バザーやフリーマーケットだけでなく、近頃は、中古品の販売店やＷｅｂを利用した売買などが、年齢を問わず広がりを見せている。

リサイクルとは、使い終えたものを再び資源化して利用することである。例えば、アルミは原材料から精錬する際に、膨大な電気を必要とする。しかし、回収した空き缶から再生した場合は、精錬した時に比べてわずか３％のエネルギーで済むうえに、電力を作る際に発生する二酸化炭素の排出削減にも貢献する。

国内では少しずつ広がりを見せる３Ｒ活動だが、国際的に普及するには至っていない。その原因は、大量生産や大量消費、大量廃棄を前提とした経済の構造にある。そのシステムを改めていかなければ、地球の環境を維持することは難しい。こういった状況の中で、我が国の企業やＮＰＯなどが、３Ｒ活動の普及をさらに進めるために様々な活動を始めている。

その一つとして、リユースとポリオワクチンの寄付を結び付けた

取り組みがある。これは不要になった古着を収集して販売し、その 1680
売上金の一部を活用して、開発途上国にワクチンを届けるというも 1710
のだ。一般の人が参加するには、専用の回収キットをＷｅｂサイト 1740
から購入する。不要になった衣類や靴などをこれに詰めるだけで、 1770
支援団体に送ることができる。 1785

キットが１箱送られるたびに、５人分のワクチンが届けられる。 1815
また、衣類や靴は難民などへの寄付ではなく、安価で開発途上国へ 1845
輸出して販売するため、現地での新たな雇用が生みだされる。そこ 1875
から得られた収益の一部を使い、ワクチンの購入にあてている。 1905

参加者は協賛企業で使えるクーポンがもらえ、これを使うことで 1935
もう１人分のワクチンが寄贈される。様々な企業や団体によって、 1965
献身的に運営されているこのモデルは、開発途上国の幼い生命を救 1995
うと同時に、リユースの促進が期待できる。この取り組みにより、 2025
これまで１６０万人以上の子どもに、ワクチンが届けられた。 2054

別の企業は、古着のポリエステル繊維をリサイクル処理し、劣化 2084
させずに再生品を作ることに成功した。今では自社開発した生地を 2114
使用して、破れたときだけでなく、気分の変化に合わせていつでも 2144
柄の着せ替えが可能な傘を、他のメーカーと共同で販売している。 2174
処分の対象でリユースできない衣類が、最新技術によりリサイクル 2204
の対象へと変化した。 2215

さらに、この企業はリサイクル燃料の精製技術も開発している。 2245
ある映画で有名なごみをエネルギーに変換する自動車を複製し、こ 2275
の燃料を活用して走らせた。現在もジェット飛行機の燃料開発へと 2305
移行し、早期の実現を目指した計画も進行中だ。こうした活動は、 2335
リサイクルに対する負の印象の改善を目標としている。そして、次 2365
の世代を担う子どもたちに、リサイクルの素晴らしさを伝えるとと 2395
もに、興味や関心を持ってもらいたいと考えている。 2420

こうした企業の活動が支持される背景には、江戸時代の前後より 2450
確立して、日常に根付いていた日本独自の価値観がある。それは、 2480
もったいないという言葉に集約される。長い間、節約と節制を旨と 2510

した生活習慣を続ける中で、知らず知らずに３Ｒの精神が蓄積されてきた。しかし、高度経済成長に浮かれて大量消費に慣れた日本人は、一時、その言葉に含まれる重要性を忘れていた。

最近、改めてその言葉に注目が集まる話題が、海外から届いた。環境分野で初のノーベル平和賞を受賞したケニア人女性が、自分の名前とよく似たＭＯＴＴＡＩＮＡＩを合言葉に、世界で講演し節約を呼びかけている。祖先の生活習慣の秘めた素晴らしさを、外国人に発掘された格好である。これが契機となり、３Ｒが世界的に普及するかもしれない。

日本の企業の中でもこうした機運に啓蒙され、基本的に不要不急の物品は購入を控えるリフューズと、原則修理して長期間使用するリペアを加えた５Ｒを提唱しているところがある。こうした活動は啓発的な示唆を含むと同時に、実現性に乏しいことが多い。そこで今回のオリンピック・パラリンピックの機会を活用して、具体例を提示できれば非常に効果的である。例えば、会場周辺の区画全体で資源やエネルギーを節約できる仕組みを確立できれば、循環型社会を実証する成功例となる。そこに日本人が長い間培ってきたもったいないの精神と、高度な技術力という裏付けがあれば、世界の人々への説得力も増すだろう。地球の環境を維持するという夢をメダルに託して、二度目の東京大会を迎える日は近い。